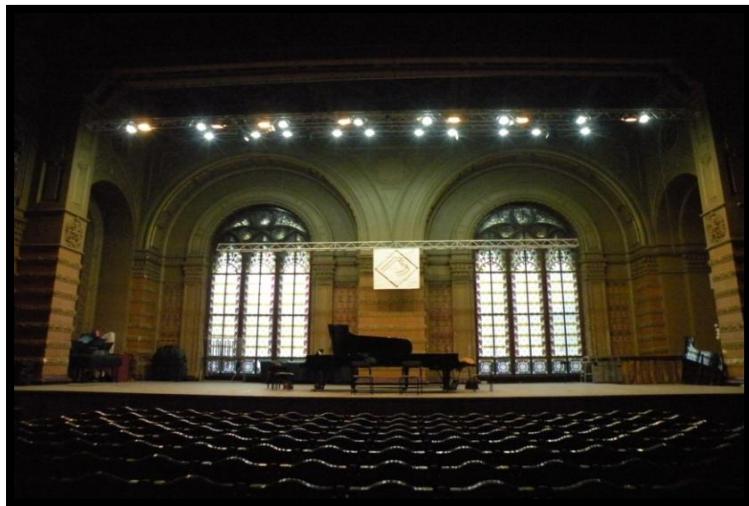


第6回 国際室内楽フェスティヴァル“オデッサ・ディアログ/Odessa Dialogues”

開催期間：11/21～23 場所：フィルハーモニック・大ホール(写真下),



ストラフスキイ・ホール,
フィルハーモニック・小
ホール

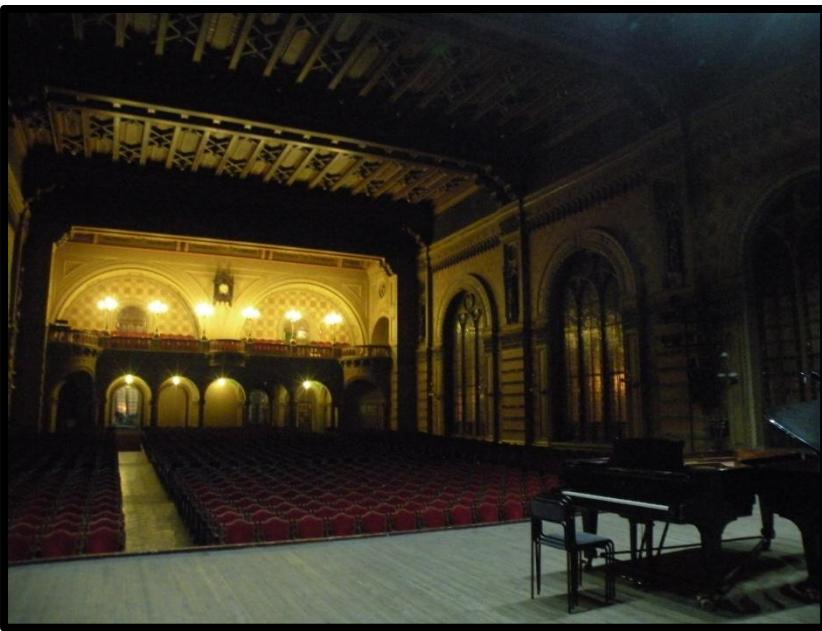
主催：ウクライナ・ピア
ノデュオ協会 (全ウクライ
ナ音楽連合)

会長：オルガ・シェルバ
コヴァ女史

副会長&オデッサ・ディ
アログ芸術監督：ユリ・
シェルバコフ氏

オルガ会長のお話しによりますと、これ迄 ピアノ・デュオのみの音楽祭を開いていた所、聴衆は様々なものを求めている事が分かり、今回は“色々な組み合わせのデュオ”をコンセプトにプログラムを組み、タイトルを“国際室内楽祭”と改めたとの事。

フェスティヴァル初日のガラ・コンサートは、ヴァイオリンとアコーディオン、会長と副会長の P.デュオ、クラリネットとギター、私達の P.デュオ、ヴァイオリンとピアノの5組出演。千人を収容できるフィルハーモニック大ホール。上と下の写真は、ガラ当日 G.プロ時に撮影。



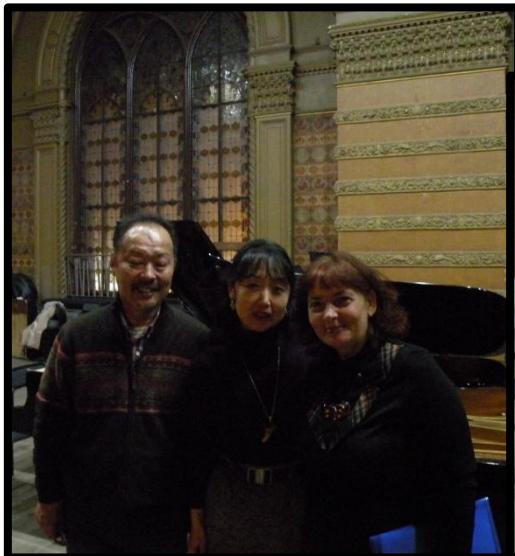
この写真は、袖からス
テージに出て直ぐに見
える客席。

出演者は 客席には出ら
れないので 舞台袖か
ら 会長&副会長の P.
デュオを
見学。。。



セカンドを担当しているのが
ユリ・シェルバコフ氏。

少々時間を遡り 前日の20日、
20時半～22時半にこの会場で
リハが有り、1時間程弾いた頃、
ガラのフィナーレでお二人のデュオと
2台8手をしましょう！
という案をオルガ女史から伺い
私達は嬉しい驚きを覚えていました。



写真左はオルガ女史と。右はユリ氏と。

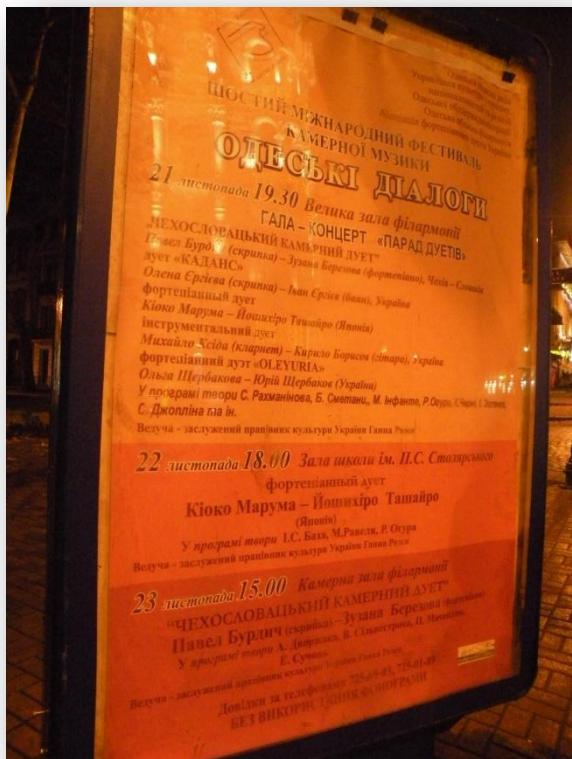
『シェルバコフさんなんて呼ばないで、ファーストネームで呼んで！』と仰るお二人は
とても優しく気さくなお人柄。 組まれて数十年・・・との事。
連弾で第4回国際ピアノデュオコンクールにて毎日新聞社賞を受賞されています。

開催地オデッサに日本人は恐らく・・・我々のみでしたのでしょうか。



ガラ当日、街中に有るフェスティヴァルの大き
なポスターの前に立っていると・・・
『これはあなた達よね？』と話し掛けられ、
『行こうと思っているのよ！楽しみにしている
わ！』と励まされました。その女性に撮っても
らいました写真です(左)。各々名前を指してい
ます。

ポスターのみは、前夜雨の中撮っていました・・・

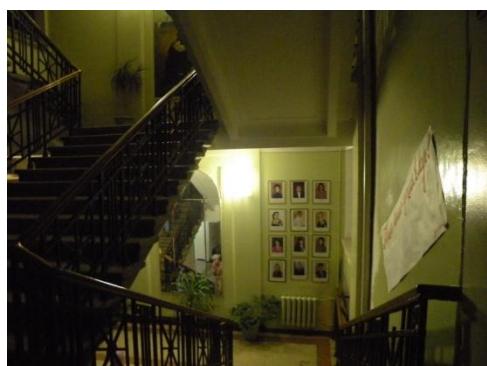


比較的上の方の21から6行目、
中央辺りの22の所に私達の名前がロシア
ン・アルファベットで記されています。
(因みに私は Kioko Maruma)

さて、オルガ女史&ユリ氏の演奏後
一組おいて私達・・・(primo:K.M.
second:Y.T.) 歓声に迎えられ・・・
1曲目は インファンテのアンダルシア
舞曲よりセンティミエント。
大きな緊張感の中 無事に終えると
温かい拍手。 そして2曲目は
小倉朗の舞踏組曲より とてもノリの
はっきりしたⅡ。

日本人の根底に流れる静と動、躍動感を楽しみつつ その時のベストで表現できた!と思った次の瞬間、『ブラヴォー!』の声と共に大きな拍手、そしてアンコールの手拍子。一旦中に入り掛けたものの 司会者に促され 再び舞台へ・・・ カーテンコールのご挨拶。袖に向かうと オルガ女史とユリ氏、そして次の出演者ペアが笑顔で『オデッサデビューおめでとう!』と迎えて下さり、主催のお二人から両頬に祝福のキス・・・
私達は その温かさに感動していました。

そしてフィナーレは、2組の P.デュオによる2台8手。Liadow の小品“Tachi tachi”から4曲。最後の15小節位のところで 他の出演者達が登場し 舞台上に全員集合。曲が終わると同時に 大歓声と拍手が起こり それは直ぐに手拍子に変わり・・・
出演者全員が横に並び手を繋ぎ 何度もお辞儀をしていました。



2日目は、ストラフスキーホールにてリサイタル。前ページの写真2枚は、ホールへ向かう階段。

司会は前日と同じ女性。前半はバッハの2台のチェンバロの為の協奏曲 BWV1061a 全楽章と小倉朗の「舞踏組曲」より I, III, II。バッハはいつも通り。パートチェンジをしての邦人作品は前日を上回るノリで楽しく演奏。『ブラヴォー！』に大きく励まされ後半へ…休憩の代わりに 5分間の司会者のお話しが入り、いよいよ初披露の連弾、ラヴェルの『マ・メール・ロワ』。

お互い 綺麗な響きを楽しみつつ 美しく憂いを秘めた雰囲気を持って演奏した結果……客席全体からのブラヴォー！それに驚いていると、拍手は次第にアンコールの手拍子に変わり、司会者に促され舞台へ。未だラストの2台4手を残していましたから、一旦袖に戻り気持ちを落ち着け、ダフニスとクロエへ。



演奏を終えると、
再び温かい
ブラヴォー！
暫し感動してお辞
儀をしていると
オルガ会長が客席
奥から 手に何かを
持つて舞台にいらっ
しゃり、司会の言葉
が入り…会長から
先ずウクライナ語で
お話しが有り、客席
から『Oh～～！』

と歓声が上がり、その後 英語で説明が有り、今回の国際室内楽祭に於いての excellent artistic skills と highly professional performance と P.duo の分野の発展に貢献したという3点に対しての賞状を渡されました。

『本当に有難うございます！』と胸に手を当ててお礼を述べ 私達二人共 深く長いお辞儀をしていました。

次の写真は、終演後にオルガ女史と頂いたディプロマ、お花達と共に撮りましたもの。ユリ氏による撮影。



賞状のアップです。

翌23日に どうしてもの都合により オデッサを離れなければならなかつた為、この後お二人の提案で会食。その際、『来てくれたのがあなた達で 本当に良かった。』と手を握り締めて言って下さったので、『私達は とても大きな素晴らしい経験をさせて頂きました。お二人との演奏も 思い掛けない幸せでした。心より感謝しています。』と申し上げ、その感無量の気持ちの中、使命を果たせた喜びと共に P.デュオは楽しい！と改めて思っていました。

(記：丸山 匡子)